

「旧石器時代の富里」

於：富里市立図書館

2005・5・22

林田利之

1. 人類の誕生

人類誕生の地とされるアフリカ大陸では新たな発見が相次ぎ、現在、最も古い人類の化石骨は700万年以上前(図1)に遡るといわれています。

人類の進化は古い順に「猿人→原人→旧人→新人」というように直線的に変化してきたと長らく考えられてきました。しかし、現在の研究では数多くの人類が同時期に存在し、複雑な過程を経て進化してきたことがわかり始めています。

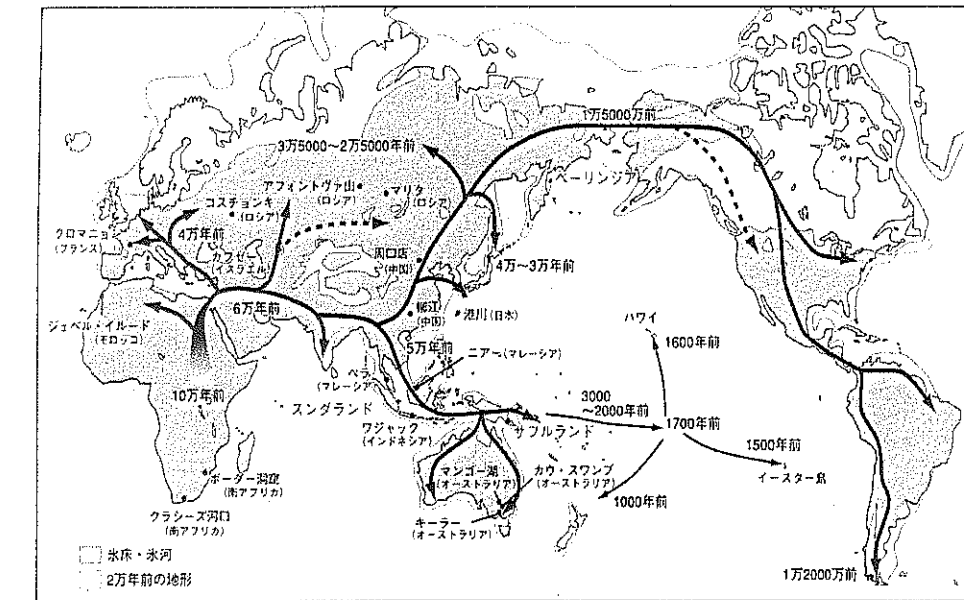


図1 人類の世界への広がり

2. 人類と旧石器

世界最古といわれる石器はエチオピアのゴナ遺跡から見つかったチョッパー(礫を打ち欠いて刃を作り出した石器)という石器(図2)で、およそ250万年前のものといわれていますが、これら原始的な石器は100万年という気の遠くなるような長い時間使われ続けていました。

250万年前から始まる旧石器の歴史は1万2000年前まで続き、縄文式土器が発明されて以降現代までの人類史において99%の時間を占めているといえるのです。

日本の旧石器時代は2つの時期に区分されて研究され、それぞれ前期・後期旧石器時代と呼ばれています。ただ、前期については現在研究が白紙に戻されたため3万年前から1万2000年前までの後期旧石器時代の遺跡のみが、日本の旧石器時代遺跡として確実に存在していたことがあらためて確認されています。

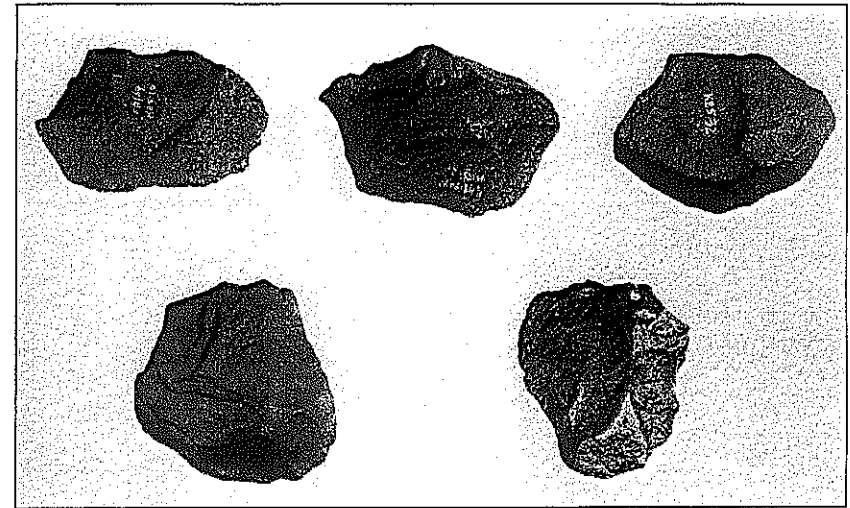


図2 オルドヴァイ文化の石器群(ケニア)【左上の石器の大きさ長さ約7.3cm】

3. 石器の作り方

石器には磨いて形を作る「磨製石器」と、石を打ち欠いただけで作る「打製石器」がありますが、旧石器時代では「打製石器」しか作られていませんでした。(図3)石器が作られ始めた頃には材料を贅沢に使って制作していましたが、人類が世界中に広がる中で材料である「石」そのものが少ない地域でも暮らさなければならない場合もありました。

このように必要に迫られたことから、少ない石器作りの材料を如何にうまく利用して、効率良く石器が作れるかという試行錯誤が行われるようになり、様々な石器製作の方法(技法)が発明されました。日本でも石刃技法・瀬戸内技法・湧別技法などの名前のついた技法が知られますが、中でも瀬戸内技法は讃岐石(サヌカイト)の性質に合わせて考案された技法であり、瀬戸内地方を中心とした限られた地域にのみ存在する技法として有名です。

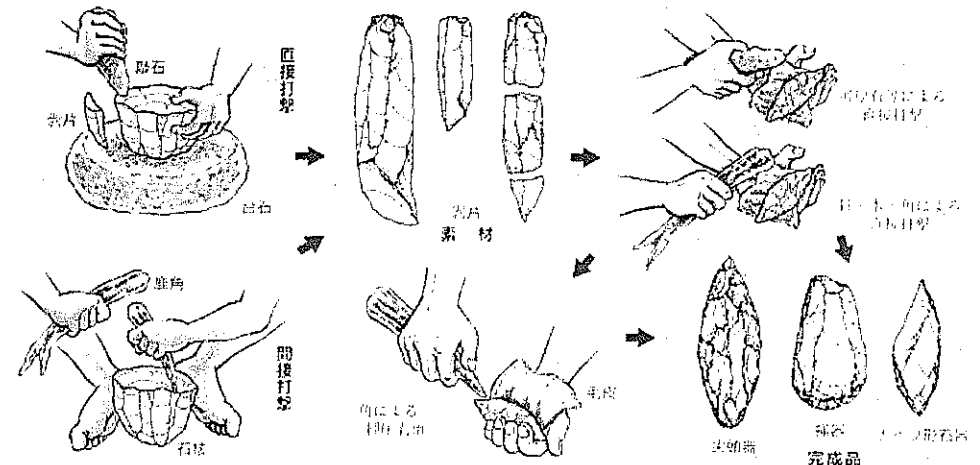


図3 石器の基本的な作り方